



板持 文子 議員

### 学校給食と有機農業について

#### 問 オーガニック給食と農業施策の連携について

答 有機農産物に限定した供給には至っていませんが「学校給食野菜供給拡大事業」により市内産野菜の学校給食への供給を促進する取り組みを関係部局が連携して推進しています。

食材の調達については、これまで通り市が直接行うことから、特に問題はないと考えています。

グなど、個包装のものは代替食を提供しています。

問 アレルギー対応の給食の実施は、市ではどう捉えているか。

答 教育指導部長

保護者に事前にお配りをした献立表や成分表を確認いただき、個別に対応をいただいています。学校給食センターでは、可能な限りアレルギーに配慮した献立の提供に努め、デザートやドレッシング

問 農業施策として、オーガニック栽培やその地域ブランド化の推進について

答 農林水産部長

市では、農産物の安全性を確保することは、高島産農産物の付加価値を高め、販売促進にもつながることから、高島市農産ブランド認証制度を設け、化学合成農薬や化学肥料の使用を制限し、安全・安心な農産物の生産を進めています。オーガニック栽培の地

域ブランド化を推進するためには、有機栽培に係る生産技術や販売先の確保などの課題があり、農業者の高齢化が進む中で、多くの農業者が取り組みを進められるよう栽培技術の確立や市場ニーズの把握による販売先の確保など、取り組みやすい環境を整えることが重要であり、市農産ブランド認証制度とも調整を図りながら、推進のあり方を研究していきたいと考えています。



その他の質問

○農業の危機的状況とこれからの政策について

答 教育指導部長  
学校給食センターの民間委託内容は主に調理業務や配送業務であり、献立づくりや

問 少子化に伴う今後の児童生徒数の減少および施設や設備の老朽化などを見据え、現在の4つの学校給食センターを2カ所に集約化し、調理業務が民間委託されることが報告された。この集約化や民間委託により、施設運営での人材&コスト削減などスケールメリットはあるが、安心安全な地場産食材の調達に問題はないか。